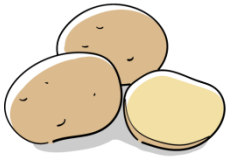


献立ひとくちメモ

6月26日(金)



今日はじゃが芋のお話です。

ヨーロッパの主食はパンが主流ですが、昔はその原料となる小麦が凶作に見舞われるたびに高騰（こうとう）し、市民による暴動が起きていました。そのため、栄養価が高いじゃが芋は小麦に代わる主食として、国を救う希望の食材として国王や貴族たちに大事にされてきました。

じゃが芋の花は紫色の星形をしており、フランス革命時の王妃マリー・アントワネットが愛した花としても有名です。イギリスの産業（農業）革命では、じゃが芋を生産するシステム（労働・物流など）ができたことで食料生産が増加しました。これは世界に伝わり、現代の農業の形になったといわれています。